

■鉄鋼標準化センター

活動報告

1.トピックス

1.国際標準化関係

1.ISO/TC67「石油及び天然ガス工業用材料及装置」の総会日本開催(1994年)
石油関連団体に対し、工技院中心で総会日本開催への協力とISO/TC67/SCs(SC1, SC5以外)への参加について業界の積極的な対応を求めている。今後、その推進のため工技院を事務局とする準備会(または連絡会)を設置し、関連団体に対し、ISO/TC67の認識を深めさせることからスタートし、所期の目的に向かうよう考えている。

2.ISO/TC67/WG2(Certification principle)国際会議の日本開催

TC67/WG2 Convenerの要請により次回会議(7月19日～21日)の日本引受けを決定。開催は住友金属のご好意により住金マネジメント研修所(東京池之端)を活用することになっている。

3.ISO/TC17の1992年度Annual Report発行。

4.鉄鋼関連のISOの1993年度国際会議は23件。(3.2項参照)(既に終了の2件を含む。)

5.国際標準化協議会

3月17日に行われた講演会に於て、H. W. Huigen氏(CEN副会長)よりCENの活動について説明があり、この中でVienna Agreement、日本との関係、CENに関する情報の入手の仕方等についても言及された。

2.国内標準化関係

1.日本工業規格の制定・改正及び廃止

平成5年3月1日付(官報掲載3月23日)で次のJISが、制定・改正又は廃止された。

鉄鋼の窒化層深さ測定方法 G0562(制定)
鉄鋼の窒化層表面硬さ測定方法

	G0563(〃)
異形線ロープ	G3546(〃)
鋳物砂の試験方法	Z2601(改正)
鋳物砂の粒度試験方法	Z2602(廃止)
鋳物砂の通気度試験方法	Z2603(〃)
鋳物砂の強度試験方法	Z2604(〃)
鋳物砂の水分試験方法	Z2605(〃)
鋳物砂の強熱減量試験方法	Z2606(〃)

2.平成5年度における公示検査の実施が官報で告示された。

(1)公示検査を受ける指定商品・圧延鋼材(G3101, G3103, G3106)、鉄筋コンクリート用棒鋼(G3112)、鋼製電線管(C8305)

(2)検査申請期間:4月12日～5月10日

(3)検査実施期間:5月17日～平成6年2月28日

3.ほうろう用鋼板の酸洗減量測定方法(新)

JISC窯業部会(3月18日)に於て承認された。原案は(株)日本珪瑯工業会に於て、鉄鋼メーカー関係者も参画のうえ作成した。

4.平成4年度JIS見直し調査完了

平成5年度に見直し期限の来るPC鋼棒外47件のJISについての報告書、改正原案等を3月9日、日本規格協会経由工業技術院に提出した。

2.TC17幹事国業務

1.ISO規格が発行されたもの:1件

ISO 4954(SC4)冷間押し出し用鋼(03-01)

2.TC17の組織:SC17, WG30

3.TC17のメンバー:Pメンバー30,Oメンバー31

4.1992年度Annual Report発行。

5.ASTM, ECISS, JIS3者のステンレス鋼成分の調整の為の第2回合同会議が2月24～26日に持たれた。

6.SC11における新作業項目の投票結果:

「遠心鑄造管」は採用。プロジェクトに参画するPメンバー:ドイツ, チェコ/スロバキア, フランス, 米国, イギリス

7.SC19におけるCD 12096(圧力用サブマージ溶接鋼管の溶接部X線探傷)の投票結果:

(賛成) (反対)

Pメンバー 7 3(日本, 英国, 米国)

全メンバー 8 3(〃)

次回5月に行なわれるSC19/WG1会議で調整後引き続き開催されるSC19国際会議で審議される。

3.TC17/SC1幹事国業務

1.出版段階(Stage 5):

(1)ISO 10702(N-蒸留滴定法); ISOゲラ刷りを中央事務局にて準備中。

2.承認段階(Stage 4)

(1)DIS 10698(Sb-無炭原子吸光法); DIS投票中。締切1993-05-19

(2)DIS 10697-2(Ca-原子吸光法); DIS投票中。締切1993-04-29

(3)DIS 10700(Mn-原子吸光法); DIS投票中。締切1993-06-30

(4)DIS 10701(S-吸光光度法); DIS投票中。締切1993-06-30

(5)DIS 439(Si-重量法); DIS投票中。締切1993-08-11

3.委員会段階(Stage 3):

(1)CD 10278(Mn-プラズマ); コンビナーが最終CD作成中。

(2)CD 10719(GC-燃焼赤外線吸収法); コンビナーが最終CD作成中。

(3)CD 10720(N-融解熱伝導率法); 再予備実験準備中。

(4)CD 11652(Co-原子吸光法); 再共同実験中。締切1993-05-30

(5)CD 11653(Co-電位差滴定法); 再共同実験準備中。

(6)CD 4941(Mo-吸光光度法); CD投票中。締切1993-03-31

4.作成段階(Stage 1/2):

(1)WG 32(Ni, Cu, Co-ICP法); 共同実験準備中。

(2)WG 33(Mo, Nb, W-ICP法); WD及び共同実験案回付中。コメント締切(03-31)

(3)WG 34(微量B-吸光光度法); 共同実験用WDコメント整理中。

(4)WG 35(微量B-ICP法); 共同実験用WDコメント整理中。

(5)WG 36(高S-HFIR法); 共同実験用WDコメント整理中。

(6)Ad hoc group 14-1(微量C); 共研「鋼中微量炭素定量法研究小委員会」結果待ち。

(7)Ad hoc group 14-2(XRF-基準法); 共同実験準備中。

4.TC67/SC5幹事国業務

1.TC67/SC5のWG2(継手性能試験法)とWG3

(耐食性油井管)のコンビナーに第1回国際会議開催を依頼、開催日の連絡を受領。

WG2:5月24日～25日 於デュッセルドルフ
WG3:6月1日～3日 於ミラノ

2.第3回TC67/SC5国際会議のホスト国ドイツより、幹事国の依頼どおり9月20日～21日於デュッセルドルフ(マンネスマン)に決定の旨連絡を受領。

3.3月5日第19回TC67/SC5諮問部会開催。

(1)TC67/SC5/WG2及びWG3の運営方法、内容について審議。ともに国内WGを設け、日本の進め方を検討して行く旨決定。

(2)第5回TC67/SC5/WG1(油井管)の国際会議出席結果報告。

ドリルパイプの規格化の進め方として、API Spec 7(ツールジョイント)の取扱い、TC67/SC4の決定を待つ(～5月)。

油井管規格のDIS 11960はAPI Spec 5CTとのcompatibilityのため比較表を作成。次回WG1会議は6月17日～18日於米国等の報告が行われた。

5.日本代表を派遣するISO国際会議

TC17/EC 国際会議 1993年6月9日, 10日(パリ)

TC17/SC11 国際会議 1993年5月13日, 14日(ワシントン)

TC17/SC12 国際会議 1993年6月8日～11日(マンチェスター)

TC17/SC19/WG1 国際会議 1993年5月10日～11日(ミラノ)

TC17/SC19 国際会議 1993年5月12日～14日(ミラノ)

TC17/SC20 国際会議 1993年10月27日～29日(パリ)

TC17/SC4 国際会議 1993年10月(未確定)

TC67/SC5 国際会議 1993年9月20日～21日(デュッセルドルフ)

TC67/SC5/WG1 国際会議 1993年6月17日, 18日(ニューオリンズ)

TC67/SC5/WG2 国際会議 1993年5月24日, 25日(デュッセルドルフ)

TC67/SC5/WG3 国際会議 1993年6月1日～3日(ミラノ)

TC67/WG2 国際会議 1993年7月19日～21日(東京)

TC164 総会 1993年9月20日～24日の内1日(パリ)

TC164/SC1 国際会議 1993年9月20日～24日の内2日間(パリ)

TC164/SC2 国際会議 1993年6月10日, 11日(プラハ)

TC164/SC3 国際会議 1993年9月20日～24日の内2日間(パリ)

TC164/SC4P 国際会議 1993年6月7日～9日(プラハ)

TC67総会 1993年9月23日～24日(ハーグ)

TC67/SC1 国際会議 1993年9月15日～17日(デュッセルドルフ)

ECISS/TC20(鉄鋼分析) 国際会議 1993年4月19日～20日(ストックホルム)

TC47/SC1(化学分析)/WG1, WG2国際会議 1993年4月21日(ストックホルム)